

令和6年度第1回環境担当者研修会開催

開催日時 : 令和6年7月30日(火) 13:00~16:30

開催場所 : JNCファイバース(株)守山工場

参加者数 : 32名(会員29名、行政3名)

7月30日、令和6年度 環境担当者研修会をJNCファイバース(株)守山工場様のご厚意により、同社にて開催致しました。JNCファイバース(株)守山工場様は、「水を通じた地域と企業の共生」を目指して緑地などの整備、生物多様性に関する取組みなど、積極的に活動されております。また、昨年、緑化優良工場等表彰(通称:全国みどりの工場大賞)の近畿経済産業局長賞を受賞されました。会員の皆様に、いろいろと学んでいただくことと、今後の環境活動に生かしていただきたく開催いたしました。



- ・主催者挨拶 湖南・甲賀環境協会
会長 経田洋氏



- ・受入側ご挨拶 JNCファイバース(株)
常務取締役 工場長 吉田尚喜氏



- ・講演「水を通じた地域と企業の共生」
～緑化推進と生物多様性への取組み～
環境安全品質課長 片岡之典氏



JNCファイバーズ様は、日本窒素肥料株式会社から色々と社名が変わり、現在に至りますが、創業116年という古い歴史をお持ちで、現在の守山工場は昭和38年創業となり、本年は61年目という歴史を持つ工場です。

緑地面積率は26%と高い比率を確保されています。

工場は野洲川に面しており、地域の環境もよく、先輩から引き継がれた環境と、環境改善への取り組みを継承しているとのことでした。



工場では、7か所から地下水を汲み上げ、生産設備の冷却水として使用しております。約7000 m³/日の水を利用しておりますが、その内の98%が設備冷却として使用しています。その後、排水路を通じ工場外の水路に排出されます。その水は、地域の農業用水等として利用され、地域と共生している水路となります。

工場内の排水路には、藻の発生を抑えるために、鯉が泳いでいます。大きな鯉も泳いでおり、見入ってしまう大変優雅な光景です。

また、排水路の途中には琵琶湖を模した池があり、小魚が泳いでおります。季節によっては渡り鳥が休憩に立ち寄る場面も観られるようです。



ビオトープおよびゲンジホタルの飼育については、ホタルの森資料館や琵琶湖博物館の力を借り構築してきたとのことでした。



ビオトープには、水性植物を植栽し、小魚やカワニナ、ホタルの幼虫が生息していました。なお、このエリアには鯉が入らないようにしています。また、外来種であるザリガニですが、田んぼから侵入するよう
で、生態系が崩れないように、見つけたら駆除しているようです。

ホタルの飼育については、守山市としてホタルの飼育に力を入れておりますが、JNCファイバーズ(株)守山工場様もホタル飼育に取組み20年になります。そして、昨年より社内で飼育できるまでのスキルを身に付け、100%社内で飼育出来るようになりました。



ホタルの飼育で難しいのは、幼虫の餌となる貝（カワニナ）の飼育となります。ホタルの幼虫は、自分サイズに合ったカワニナしか食べないので、同じようなサイズのカワニナを育てる必要があります。ホタルの幼虫を育てるよりカワニナを育てることが重要であるため、ホタルの飼育よりカワニナの飼育に注力している状況です。

カワニナにも餌は必要です。ビオトープにはイヌビワの木を植樹され、イヌビワの葉をカワニナの餌として利用しているようで、費用面では特に発生していないようです。

成虫となったホタルは、「ホタルの夕べ」というイベントで放虫を行い、従業員、工場関係者だけでなく地域の皆様にも楽しんで頂いています。

また、地域の清掃活動、植樹活動、ヨシ刈りなどを通じて、地球環境の保全、社会との率直は対話、に取り組んでいます。



最後に、滋賀県甲賀環境事務所、上田次長様よりお礼の挨拶を頂くとともに、環境改善活動に対し感謝のお話をされました。

滋賀県甲賀環境事務所 上田次長

参加者の皆様



今回、猛暑の中、ご対応いただいたJNCファイバース(株)守山工場様に感謝を申し上げます。
貴重なお話を頂き、私たちが今後の環境活動に生かされたと思います。
本当にありがとうございました。